



中村俊定文庫  
文庫 18  
166





むいへん 洗うをせむなり  
さむをく 其るをく  
後半のきふく 女友子雲は  
名は深め今る名の海  
こがらとて 成をほかへ  
月をく 感し集り











うねと求むくか直るが

百合草の管ふや一姿 初詠

鞭石

松葉吹らぬ馬れ横糸

友雲

友雲を志乃志ふくそれより  
あゝの糸をわうち拾ひ集らん  
越後の方(か)もゆを志して

櫻分て越の花りれまじす

滴水

さ月れあゝ友雲子北州(か)おも  
むくもけ道深く海なんこれ  
志めやそれ末の深くとふきて  
とれ雲のとも糸摘續切花もんむ

言水

捨むくをさふ白ふ 橋

友雲

縁の堀に流るぬ地の音もれて

方山

村毎遠く神のとけり

友元

漕ぎ次艦の印と月を

鞭石

まきうせやふ鳥鳴や初

秋草

菊れ初初の花りをゆき乃

江寧

午よひつそ枕るふる

古帆

切艾ゆひのほらちすゆり

未好

かれておきといひもがきれす

昨暮



いのりとも神ハ忌避して出さるやら 日 伯菟  
 ぬれ漬ふハ紫内もや 日 播东  
 と野をきよき此か端をさる 日 魁之  
 かぶし安はん番サもさる 日 守中  
 臨梅も遠くよて老の腰車 日 之中  
 二階ハ棚み愛こ文 撰 小枝  
 後よて糸掛さる 日 如弓  
 麻の踏こハ伯父の留の 日 竹枝  
 よれ中乃ね端もきん 日 農白

新井の浪流こゆる 日 仙芝  
 酢と香こゆる 日 依文  
 此のよつれハ交りの妻 日 布人  
 鈔別の續サれも 日 此の先よ記

針賞と門口くく水部 日 友雲  
 古帆  
 菅菜やま本中もさる 日 保の浦  
 古帆  
 合ぬ 日 松のさる 日 友雲



もろくの初物あうとさうきて 曇

月とめあつた水精の輝 帆

輝きぬとみやうたはく入敷やに白 全

御用んれ移なをまて冷の 曇

友妻好士子宿次

大ミツ

江寧

心もつしおるぬ鶴を糸調敷

はらりと藍み埒る柱か 友妻

以海の乃翁掃とよむて 全

友妻好士子宿次

越前高柳村

むすよみれあまきハのうら情水月 八尋氏 水

八十物氏まで

友妻

水まきれ初て涼一の汐

活の流まふつも松れ 友雨

気北もに雨と帯をきう 田水

三玉東田氏まで

残枕ぬやもゆする汐海の音 友妻

紙おとが貝の塚おて

馬橋士のいひき 涼や一里塚 全

官腰作文寫まで



女雲

宮腰中

依文

布人

仙芝

叢白

執筆

金沢

小枝

友雲

仰いしや、園小海辺者一きり

夕か月棚の二階之階

鞍坪をかりし馬のさき

柄のたよりけうこちの傘

的ふれ、的も仕也す月の音

櫓のあましも、霧吹丸

とまき子、松宿のはきくをさ

のれ、の音もあきうあのか

睨す、一を潜はるる音

并松の櫓、とるも合点し

作文

とまき子、能州、坊、とまき

風意、能のこま、能也、こま、能こ 全

能州、取の口、とまき

涼、さ、も、世、海、越、え、と、通、り、天 友雲

冷、れ、也、と、う、そ、扇、子、れ、箱、一、つ 梶女

元、鹿、也、身、も、あ、ら、山、の、女、命、心 和荆

荒山、こゝ、て、中、阿、尾、路、善、舟、細、り、て

鏡、は、る、夢、も、あ、み、碓、を、椽、の、前 友雲



万尾とひしあり氷見とみ流一り氷見に  
辛嶋とて十町たりはふれりる嶋なり  
後寛塚アリ

後寛ハハヒトヨコれはし初あり

友妻

氷見より放生は八幡をこまはあひいに  
二とふすを海山深谷なりとみ名茶アリ  
島持田徳ありゆき海くまらふかえき  
川を石葉川と云ふは磯海素異海  
四子の浦石葉を放生は松竹亭は泊りて  
おろか

都孔初流しはりみち川

松竹

お稲の香サもる流松の葉

左葉もよみあひてまのまを思ひ  
方ふとのうはさやしてまもよ

何あつ知し初をふハ一器量 池水

放生澤

池水誹諧志あり字去の初七首とてと  
見ても作道之塩板おす  
放生はよる滑川、お中さ大なる川流あり  
川あ岩西岩流系岩流とみ宗祇方角抄  
能州とみ岩洲の流り能州なり大寺能州  
越中塔なれおし前なる

滑川を初能の賀

帆をよるよれそよく空 系藤 友妻

はあし勢州涼菴あみあて

初汐やあ蛤の溪や吹 今

勢州

都ハ錦只初やとも起とも 涼菴



夕浦朝一とのくこまきりぬ

志こ海歩字を海士の朝津さひ 友里雲

残子 滑川せ平

笠よりて乃らきはり 花吹雪 野之

峰よりて捨しけりや 立田姫 休水

若月也よい 西へ見こまろ 由之

萩落まここまろ 秋も 返 湯

落船の鄭もこまろ や 豊 豊

わらわは瑞泉寺の御門番と目録む

月さしよ 御所なるや 友里雲

かふ一浦亭へ涼藤とつるし 女と居

うすき志して空をさしけり 麻のあや 友里雲

こまろいひをさして海宮腰

城の月能登のあや 身えあや 全

曇子や幸よむむして

宮腰 作文

荒山の母衣や 友里雲

元鹿膝をねし 花園の香 友里雲

石月ハ 友里雲 全

酒のうらむく 癖ふりり 文

三島月 友里雲 全











赤旗の舟ふんを漬る  
 氣さく乳男といふ笑ひ  
 十九初夜塩梅うらみ  
 秋ハちよこせとさるる  
 又さふちも風うらみ  
 中判とさき縄とさるる  
 神主ふやめらまはし  
 痛人さなぬてよ  
 湯もといふて  
 鱸

いさく 洞なりん 目 蝕

うんむのよきりれ豆腐の  
 それゆえにたま果銀也

世ハ柳古法さして園れ

内通大紋 子芥おまる

貴方方成程  
 あつこさけ

あまの松ひさまつり  
 田水

越前市前白野が  
 中め秀作を家日記



せりーなむいらくれ日くれぬの夜 一本田

白髪のがれはむる 糸初尾 志野

さア〜く〜く〜く〜く〜く〜く 三井

月影 楊子と福子 貞花 花垣

うまの幸〜く〜く〜く〜く〜く 三五

心の陰 禱かちぬ 祢全をる 春風

とすけあ〜く〜く〜く〜く〜く 三井

あれ〜の〜娘〜か〜え〜の〜も〜あ〜 花鳥

せよか〜く〜く〜く〜く〜く〜く 九世

母 といさむる 戦場のま〜の 柳水

きれい〜く〜く〜く〜く〜く〜く

長者の娘の 母とあ〜の 琴 長松

きり〜と〜く〜く〜く〜く〜く〜く 三井

沼む 汲よやく〜と〜く〜く〜く〜く 可翁

すい〜の〜み〜あ〜る〜よ〜と〜く〜く〜く〜く 三井

おん〜の〜祢〜の〜の〜重〜む〜く〜大 道中

う〜そ〜つ〜ぢ〜ん〜地〜ら〜ん〜冷〜へ〜ん〜ま〜う〜ゆ〜ん 三井

晴〜の〜あ〜く〜く〜く〜く〜く〜く 道中

ころ〜の〜や〜う〜が〜ぬ〜め〜く〜く〜く 三井

長官の子は 長官よけ〜の〜つき 元道

美〜い〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん 三井

撞〜の〜も〜は〜常〜を〜の〜な〜い〜ひ〜ま〜ら〜う 七







追悼 未正月廿七日忌

於此に此篇の意を以て

友里右様

大野 芝子 一母 中世

大の

教ふの咄もいへば

芝波

古くは

暁の妻はとて今一日 田水

招くは 福居 意計 尊也

友里

妻と早寡は

フク井

ふ小嘆な所 意計

云

世に維子に

日

鹿橋

ももも

日

林谷

那のつら

日

仙紙

舟 船

船

音の石

凡そかぬ

意計

卯のふ

仙紙

田口

古くは

友里



日名丹四郎直信七歳なりし一初秋  
十九日早き幸山に登りて指圓和尚に  
才子と云はれ法名祖白と号明の卯月申  
同か彦彦と對面して

鳥に巢や皆あやこふ部公 友雲

法名祖白字明樹

玉璜和尚

好個庭前小柏樹

他日葉開除熱時

人天稱作陰涼樹

春

紫藤軒

嵩固やといふさうて水の恩 言水

松に梅の香をめて二月に 報石

粘瓶二つ持ててやその春 布人

着水の井の風風此法如い 如白

あゆみし次君のほろ乃あ菜は 依文

らん梅やとしの意意やう 意討

梅の香や四角に魚れやう 京 空閑

枝おやの葉葉ぬや梅の心 木石

分限去のる根より 春の海 之

蛙子やよきやぶて世のほり 大ツ 丹七



止しつゝささるゝしり柳りる 休水  
 内五車よばらるゝ門の柳口 夏嘯  
 山の花咲や胡蝶の遊のかま 野々  
 のこれ梅もも廣うさや山さくら座 由之  
 法師ならずいづゝさくら山さくら 如弓  
 志おほそ花の悔日とまらぬ山 晩山  
 甚 井龜軒 敦石  
 鈴帳はるゝ灯燭をそし釘の夢  
 壇のわらわれまきまき  
 かうれきる物やから糸あひらきまき  
 言水

痒うをそめりし山がしりたす 大川 龍川  
 鹿とあそぶる空たふゝ河 鳥 甚嘯  
 郭一公のまらるゝ空は谷の方 不石  
 西これの確のせんとけなとまき 依文  
 經よめうのひよちあまふ人あふ 意討  
 卯のまや祥て見んまはのそよ一續 由之  
 おつこや丸ちの櫓の舟や天 農白  
 梅子れ節やまきし小石系 布人  
 居るがや服さうのよらとハッけ分 素陽



一葉 ぬらふて涼 松の月 伯菟  
 志けや 葉お山よ 宿禰と 氷室を 昨襄  
 化 抱のかぬり 魚の 舎りうを 字中  
 涼 一やふ 志 海士 赤い 野々  
 一海 魚の 晴る 浦の 月 不石  
 夕立のそくら ぬの七 彦 化 休水  
 ぬを かなや 詩も かなも 様の花 仙芝  
 鶉の 美似 かなうて 鳥の 曇り 如弓

秋 休 暮 ぬら 雲 夜 吟 花 堂

汝も又南去 北東はくらめ 晩山  
 星あひぬ あれ 都の水 あひぬ 佐文  
 朝魚や 星あひぬ 花と見て 嘆 夏嘯  
 袖の 浪も ともく かなや 女 支 星 休水  
 とわさるや 八百の 早れ 梶 櫓 布人  
 黍命の 種も 初て 凡の 力す 取 也 琴  
 吹風ハ 箱の あまうや さら 田之  
 わさる 丁 菫 かなうて 何と 出 放生 松 竹



柗の葉や出づしんこをる花ふか  
 不石 野の  
 こよ草花ゆ柳子舟あそこの秋  
 不石  
 教とらけ念鳥とと目の月  
 教石  
 名月や嫁の縁はれ樓窓をく  
 如弓  
 蚕ひとねやな 業山子ト  
 楽物  
 料程場く歌をせもさぬ孫能引  
 農白  
 竹垣の啼るひやこひあへ  
 如弓  
 万葉れ教盛なまも菊の花  
 仙芝  
 りれ鳥れあひのおまや若るる  
 言水

冬

風 やまこ 魁 鳩れ年之ッ 柗鳩軒 方山

河边聞千鳥

基もと妻とく 言水

孫ものこころを

あをゆれ落葉おこの、新秋 五関  
 雪とつて見ればや木の葉は落葉前 由之  
 山あいの絵や引きく初時雨 夏嘯  
 風と誓えたりもやあひもく 田水  
 閑れ名をこころ切小おふ 野の



白きよきむらさき—あし花 休水  
 と下のくね負くる 十夜分 農白  
 帯とけむるを此のくねを 布人  
 顔てたきと命を 火燧分 佐文  
 節季いの業おとらぬを 楳 如弓  
 と—のなま—しや書なり—<sup>三</sup> 梅為  
 海—のなま—の船— 田水

帝都のまなるぬさうと

燐よ神ある娘くそまう子次明石 言水

栞あひていよく事を隣りな 鞆石  
 追光庵のむすこ—用と 友雲  
 腰くそ—のたはくも夏木立  
 そまうり 好れ事を標の 雲被  
 後綿武士の業艦奥もや— 全  
 けっ海—のえらき潮 者 暑  
 高 欄よ月もも—か—ま 全  
 志—の海も海のかつる 桐の系 被



跋

伏蘇姓存墨子近海濱後步北海白山雪  
鏡石川石架眺望之暇皮清如首編集  
也陶器砌袖于一軸凍而強誌跋雖  
寔不分其絲口不特固辭修加徑  
讀去爾

吟花堂

晚山



昔正德五乙未歲林鐘上澣

京并丁也之在名泉板



